

お年頃な  
**三姉妹はお兄ちゃんと  
イチャイチャしたい!**

~**兄妹で処女開通! 三姉妹いちゃらぶハーレム開始!!**~

成人向けCG集 基本CG12枚 本編枚数275枚





**大咲 真歩 (おおさき まほ)**

**161m**

**93/55/90 (Eカップ)**

真面目な長女。

厳しい一面はあるものの、  
妹たちには優しく、頼れるお姉ちゃん。

だが、兄である健悟に対しては  
いつもツンツンとした態度を取っている。

昔は結婚するなど健悟に言っていたが……。

エッチなことをするようになってからは  
「お兄ちゃん」と呼びながら、  
甘えておち●ち●を求めてきます♡



大咲 亜海 (おおさき あみ)

158cm

99/57/93 (Jカップ)

のんびり屋な次女。

いつもマイペースだが、  
気付けば傍にいて驚かされる。

健悟が自分の部屋にいる時に  
いつの間にか部屋の中にもいることも。

普段は口数が少なく、  
何を考えているかわかりにくいものの、  
エッチなことをしている時、  
感じているのはとてもわかりやすいです♡

大咲 陽風 (おおさき はるか)

154cm

90/54/88 (Hカップ)

いつも明るく元気な末妹。

健悟に「大好き」と言っ  
てはよく抱きついている。

異性に対しての好きではなく、  
兄として慕われている程度に健悟は  
思っていたようだが……。

行動的で、健悟とエッチなことをしたのも、  
陽風が一番乗り。

また、乳首が感じやすいようです♡

お兄ちゃん  
早くしようよ♡



ま、待って  
もう我慢できないの  
だから私から…



…ダメ…最初はわたし…





その光景に俺のチ○ポは  
ガチガチに勃起していた。

三人の妹たちが胸やマ○コを  
恥ずかしげもなく  
俺に晒している。

まさか妹たちと  
こんなふうになるなんて…

今でも信じられないな

少し前までは  
普通の兄と妹の  
関係だったのに…





妹たちとの関係に変化があったのは  
つい最近のことだ—





「一月ほど前」

ふう…疲れた…

今日は一日みっちり大学の講義が詰まっていたので疲れた。

そんな自分へのご褒美に駅前でシユークリームを購入した。

自分の分だけでなく、我が家、お姉さん大咲家の妹たちの分も合わせて四個のシユークリームを手には帰宅する。

ただいまー

ガチャッ

あ、お兄ちゃん！  
お帰りー！

出迎えてくれたのは陽風はるかだった。

大咲家の末妹、陽風。  
元気で明るく、ぴよこぴよこ揺れる  
ツインテールがよく似合う可愛い妹。

ただいま陽風  
お土産にシュークリームを  
買ってきたんだ



やったー！  
お兄ちゃん大好きー！

よ、喜んでくれて嬉しいよ

ぐにゅ

抱きつらでくる陽風。  
自分のことを慕ってくれるのは  
嬉しいが、少し動揺してしまう。



ぐにゅ

ぐにゅ

また胸が大きくなってないか？

ついこの間まであんなに  
小さかったのにな…

そんなことを思っていると、  
シユークリームが入った袋を持ってらな  
左腕に柔らかな温もりを感じる。

シュークリーム…嬉しい…

あ、あみ亜海!?

大咲家の三女、亜海。  
彼女はいつもものんびり、マイペースだが、  
このように突然現れては驚かされる。

お帰り…お兄ちゃん

あ、ああ…  
ただいま亜海



亜海お姉ちゃん  
帰ってたの!?

全然気付かなかった

うん、しつねりゃ...

ずっと部屋にいたけど...  
お兄ちゃんの気配がして  
出てきた



二人はそんなやりとりを交わすが、  
その間も俺から離れようとしなない。

ふ、二人とも…  
そろそろ離れない？

えーいいじゃん！  
もっとお兄ちゃんと  
ぎゅーってしたいよー♪

おっぱい

私も…  
このままでいたい…

そう言いつて離れないどころか  
ますます身体を密着させてくる。

マズい……このままだと……

彼女たちの女の部分を感じて  
股間へと血が集まっつていく。

ムリ  
ムリ

妹たちに欲情しているのかと  
非難されるかもしれないが、  
言い訳をさせてほしい。

彼女たちとは血の繋がりが無いのだ。

記憶がおぼろげなほど幼い頃に  
父親を亡くした俺は、  
母親に育てられてきた。

そして父親が亡くなったので  
十年ほど経った頃、母親が再婚して  
新しい父親の連れ子が三人の妹たちだ。

妹として大切には思っているが、  
血の繋がりのない異性でもある。

つい女と意識してしまったり、  
生理的な現象を抑えることができないう。







何してるの！

このままだと二人に欲情しているのが  
バレてしまうと思ひ、改めて離れるよう  
言おうとした時だったー

ま、まほ真歩お姉ちゃん

...

大咲家の長女、真歩。  
しっかり者で、頭がよく、  
年上の俺も頭が上がらない妹。

はあ  
騒がしいと思ったら…  
いったい何してるの？

いい年なんだし  
あまりベタベタするのは  
よくないと思うわ

夕飯まで時間があるし  
宿題でもしたら？

わからないところがあれば  
教えてあげるから

はい…

…うん

二人は俺から離れて  
自分の部屋へと向かう。

真歩は厳しい一面もあるが、  
妹たちには優しく、頼れるお姉ちゃんだ。

そう、妹たちには――

はあ

妹に抱きつかれて  
デレデレしちゃって…

もっと年長者として  
しっかりしてもらわないと困るわ

…ごめん

俺にはとても厳しく  
優しいは皆無だ。

デレデレしていた  
つもりはないけど…

勃起しそうになったのは  
事実だし、反論できない…

まったく…わかったら  
そのシュークリームを  
冷蔵庫にしまっておいて

私は夕飯を作る前に  
お風呂に入るから



そう言つて真歩は  
浴室の方へと行つてしまふ。

両親は仕事の関係で家を空けることが  
多い。そのため家事は兄妹で、  
持ち回りで行つてゐる。

ただし実際は、しつかり者の真歩が  
ほとんど家事をしてくれていて  
本当に頭が上がらない。

つと、そうだ  
三人がいないうちに…

シユークリームを冷蔵庫にしまおうと  
トイレへと駆け込んでオナニーをする。

家にいると妹たちの誰かが  
常に傍にいて落ち着いてオナニーを  
することができない。

部屋にはよく陽風や亜海が来るので、  
オナニーを処理したティッシュを  
見られるかもしれない。

トイレですれば射精を受け止めた  
トイレットペーパーを流すことができるし、  
消臭スプレーで匂いも消せる。

しゅしゅしゅ

しゅしゅしゅ

こうして発散しないと  
抱きつかれた時に  
勃起しそうになるし…

困ったもんだな…うっ！

あ

精液をトイレツトパーペーパーで受け止める。

毎日何度もオナニーをしているが  
精液の量は衰えることはなく、  
トイレツトパー越しても確かな重さを感じる。



最近性欲が増してないか俺？

妹たちで興奮するなんて  
兄として駄目だよなあ…

いつそのこと家を出て  
一人暮らしをした方が  
いいかな…ん？

カタタッ

外で何か物音がした気がしたが、  
誰かがトイレの順番を待っている  
気配はない。

気のせいかな？

精液が付着したトイレトペーパーを流して外に出たが、やはり誰もいない。

やっぱり気のせいかな…

そう思って自分の部屋へと向かう。

グズ



翌日、昨日よりも講義が少なかつたため  
早く帰宅することができた。

あれ？  
誰もいないのか？

家の中は静かで誰からも返事はなし。

俺しかいないのか…  
それじゃあ…

誰も家にいないうちに  
オナニーをしようとしてトイレに向かった。



下着ごとズボンを下ろしながら便座に座つてチ○ポを掴むと、これから来る快感に期待してすぐに勃起する。

そして本格的にシゴこうとした瞬間――  
トイレの扉が開いた。

ガ  
チカッ

え？



ふふふ

お帰り、お兄ちゃん♪

は、陽風…ッ!?

陽風がトイレに入ってきたので、慌てて勃起したチ○ポを隠そうとする。

だが、陽風はそれを許してくれなかった。

隠しちゃだーめっ♪

すごい…  
これがお兄ちゃんの  
おち●ち●なんだね

硬くて、熱い…  
それに男の子って感じの  
匂いがする

ずんずん

ぽろぽろ

勃起したチ●ポを陽風に掴まれ、  
隠すことができなくなってしまう。

は、陽風…  
帰ってたのか？

トイレの扉は  
鍵を閉めていたのに…

どうしてこんなこと…

突然のことに頭が回らず、  
思いついた疑問を口に出してらん。

おろおろ



ええつと…  
まずトイレの扉の鍵は  
壊しておいたの

だから鍵をかけてても  
普通に開いちゃうんだよ？

こ、壊した？

ニヤリ

うん…それでお兄ちゃんが  
帰ってくるまで自分の部屋に  
隠れてたんだ

お兄ちゃんを少しでも  
油断させるためにね

こ…こんなことして…  
何がしたいんだ…

お兄ちゃんを  
引きとめるためだよ

引きとめるため…？

昨日オナニーしてた時、  
家を出て一人暮らしするって  
言ってたでしょ？

オナ

き、聞いてたのか…!?

っていうか  
オナニーしてたの  
バレてたのか…!?

だって健悟お兄ちゃんの部屋に  
精液を処理したティッシュは無いし、  
それっぽい匂いもしないし…

部屋でしてないってことは  
トイレでしててるのかなって…

まあ、今はそれより…  
家を出て行くなんて  
絶対にダメだからね！

お兄ちゃんが  
家を出て行きたくなるように  
実力行使しちゃうんだから！

お兄ちゃん

そう言っつて陽風は自分の胸を晒して  
俺のチ●ポを握った手をゆっくり  
上下に動かした。

お兄ちゃん気持ちいい？

うちにいればわたしが  
お兄ちゃんのおち●ち●  
気持ちよくしてあげるよ

しゅ  
しゅ  
しゅ  
あ  
あ

あ  
あ

あわあわ

い、いや…  
昨日のあれは本気で  
言ったわけじゃ…

こんなことしなくても  
出て行かないからっ

ほら、胸を隠して…

ニヤニヤ

健悟お兄ちゃん  
わたしのおっぱい見て  
いいんだよ？

いつもわたしに抱きつかれて  
おっぱいがあたると  
興奮しちゃってるでしょ？

しゅわ

しゅわ

あはは

ズキ

気付かれてたのか…!?

いめん…

謝らなくていいよ  
嫌ってわけじゃないし…

むしろ女として意識して  
くれているのが嬉しいよ♪

お兄ちゃんのこと  
大好きだもん

ズキ

ズキ

ズキズキ

ズキ

ズキ

好きって…

お兄ちゃんとしても好きだけど  
男の人としても好きってこと

じゃなかったら  
こんなことしないよ

だから別にわたしで  
興奮しちゃっていいんだよ♪

くちゅ

しゅしゅ

あふあふ





ドク!

指摘されて自分が陽風の胸を見続けていたことに気付いた。

まだ小さい時は一緒にお風呂に入っていたが、あの時よりも大きく女性らしくなっていた。

ムクムク

んっ

んっ

しっしっ

すっ

すっ

んっ

服越しにその感触をよく感じていたが、生で見る胸は想像以上に成長していて、性的な魅力を放ち、俺を昂ぶらせる。

そのうえ柔らかい彼女の手でチ●ポは優しく包まれ、シゴかれる。

オナニーの  
何倍も気持ちいい……!

こんなこといけないと  
思っている……抵抗できない!

おち●ち●から透明のお汁が  
どんどん出てきてるよ?

これって我慢汁って  
いうんだよね?

気持ちいいと  
出ちゃうんでしょ?

んんん

ぬちゅん

ぬちゅん

とろ

んんん

んんん

んんん

そんなに気持ちいいなら…  
射精する時はたっくさん  
精液出ちやいそうだね…

お兄ちゃんが  
精液出すところ見てみたいな♪

そんな陽風の無邪気な言葉にさへ、  
今の俺にとって心地よい刺激となる。

陽風…もうっ！

ぬちゃっ

くちゅ

しゅしゅ

しゅしゅ

んんん

んんん

んんん

はあ♡



おっぱい大好き♡

ムムムム

ふう……っ♡

これが精液なんだ……

はぁ……っ♡

温かくて……ドロツてして……  
変な匂いだけど嫌じゃない  
不思議な匂い……

ぽっ♡♡♡



ご、ごめん…  
こんなにかけちゃってっ

謝らなくていいよお兄ちゃん

こんなに出してくれて嬉しい♪

またわたしたちで  
ムラムラしちゃったら  
いつでも気持ちよくしてあげる

だから出て行くなんて  
絶対にダメだからね!

あ、ああ…

陽風の言葉に今は  
頷くことしかできなかつた。



それからすぐに亜海と真歩が帰ってきて俺たちは慌ててトイレから出た。

その後は特にいつもと変わらないうち…  
トイレで陽風に手コキをされたことが  
まるで夢だったのかと思えるほど  
いつも通りの日常だった。

だけど…夢じゃないんだよな





夜も更けて寝ようと  
明かりを消して  
自室のベッドに横になる。

一人になると自然と  
陽風とのやりとりを思ひ出す。

妹で興奮していたのが  
バレていたのは  
シヨックだったけど…

まさか俺のことを  
男として好きだなんてな

嫌われなくてよかったけど…  
どうしたものかな…

俺のことを異性として  
好きと言ってくれるのは  
正直嬉しい

だけど俺たちは家族だ  
想いを受け入れるわけにも…

…でも、気持ちよかったな

陽風の手コキを思ひ出す。

これまで自分でシゴくことしか  
性的快感を知らなかった俺にとって  
あの快感は頭から離れなかった。

ムラ  
ムラ

…抜いてくるか

陽風の手コキを思ひ出して  
チ○ポが勃起してしまおう。

このままでは眠れそうになると思ったら、  
身体を起こしてトイレへと回からおうとした。

ス  
ッ



...

じいっ

うおっ!?

ビクッ

あ、亜海?  
いつの間に...

ベッドから下りようとして  
身体を起こしたところベッドの脇に  
亜海が座っていることに気付く。

これまでも何度か音もなく亜海が  
部屋に入ってきてくることがあったが、  
今日は考えていた内容も内容なので  
一際驚いってしまった。

亜海：…いつも言ってるけど  
部屋に入る時は  
必ずソックスはしてくれないか？

心臓に悪いからさ…

…トイレに行くの？

え、あつ、うん…



…オナニー…した？

ドキ

えっ!?

亜海にもトイレでオナニーしてらるることが  
バレているのかと、先ほどよりも驚きが  
大きく、思考が停止してしまふ。

その際に亜海は俺に近付らでー

…どーん

ド!

軽く突き飛ばされて起こしてひた上上半身を再びベッドへと戻すことになる。

そして亜海はベッドに上がりのままで股間の膨らみを凝視する。

ウケケ

…任せて

何を、と尋ねようとした時には  
下を脱がされてしまった。





この続きは、本編でお楽しみください！！

…陽風と…何かあったでしょ？

えっ!?

でっかん

はっはっはっ

びんごん

あ、亜海…どうして…

…おち●ち●…大きい…